

『歌舞伎に行こう！ 手とり足とり、初めから』

船曳 建夫／著 海竜社（2017年）

歌舞伎って、一度行ってみたいけどムリムリ、と
思っていますか？この本は歌舞伎大好き先生の
観客の目と心で、チケットはどの辺りを買えば良い
かから、服装は、食事は、など歌舞伎の楽しみ方と
歴史や裏側が書かれています。一つ残念なのは、先
生が東大名誉教授なので、東京の歌舞伎座のことが
メインで書かれています。私達が行きやすい大阪松
竹座の7月大歌舞伎や京都南座かおみせの顔見世興行は著名
な役者さんが有名演目をされるので、初
めてでも絶対に楽しめます。この本を読
んで今すぐではなくてもOKです。日本
伝統芸能の楽しみ方を味わってください。



『車夫』

いとう みく／著 小峰書店（2015年）

きつせそう
吉瀬走は高校2年の秋に学校を辞めた。二学期が
はじまってすぐに事業に失敗した父親が失踪し、一
か月半後に今度は母親が出奔したからだ。これから
どう生きていけばいいかわからず、無気力になって
いたところへ、高校時代、陸上部の先輩だった前平
より「車夫しやぶにならないか」と声をかけられる。高校
中退で両親が行方不明の自分を雇ってくれるか不安
だった走だが、紹介してもらった「力車屋」で実際
に人力車に乗ってみると、こんな風
に走ってみたいと思うようになった。

吉瀬走を中心とした力車屋に関わ
る人々の連作短編集。



『日本の名句・名歌を読みかえす』

高橋 順子／編・解説

前田 真三／写真 前田 晃／写真

いそっぷ社（2021年）



短いことばから、四季折々の情景や豊かな感情を
味わうことのできる俳句や短歌。皆さんにとっては、
国語の教科書以外ではなかなか目に触れる機会がな
いのではないのでしょうか。本書では、今日まで読み
継がれてきた名句と名歌を、美しい写真とともに鑑
賞することができます。既に知っている作品も、解
説を読み、作者の生い立ちや詠まれた当時の状況を
知ることで、より繊細に解釈できるようになります。
お気に入りの一句・一首を見つけてみませんか。

『妖怪がやってくる』

佐々木 高弘／著 岩波書店（2021年）

妖怪って、どこから来るのでしょうか。古代ふんげんの文献を
読み解くと、妖怪はどこにでも出現するのではなく、
決まった場所に現れていることが分かりました。妖
怪がはじめて記録されたのは奈良時代の『続日本紀』
です。場所はなんと天皇の住む宮中で、大祓おおはらえの儀式
が行われていました。妖怪の対処方法である大祓で
唱えられる祝詞は、『延喜式』という書物に記されて
います。妖怪が出たとされる場所を
地図で確認すると、辻・関所・門な
ど、人間が作った道ばかり。妖怪は
道を通して都を目指していたのです。



『神社巡礼』

マンガ・アニメで人気の「聖地」をめぐる』

岡本 健／監修 エクスナレッジ（2014年）

神社が登場するマンガやアニメは数多く存在して
います。この本では数あるマンガやアニメの中から
28作品に的を絞り、その作品に関わる神社について
解説されています。マンガやアニメと神社との関り
だけでなく、祀られている神様の逸話等のエピソード
が紹介されています。神社だけでなく、神様につ
いても深く知ることができます。また、神社での参
拝の作法もイラスト付きで紹介され
ており、巡礼がスムーズに行えるこ
と間違いなしです。ぜひ気になった
神社に参拝してみてください。



『使ってみたいイキでイナセな江戸ことば』

柳亭 左龍／著 小学館（2008年）

この本には、たくさんの「江戸ことば」が落語の
一節とともに紹介されています。落語の一節からは、
江戸時代の生活の様子なども感じることができます。
その言葉に関する解説も付いており、言葉の意
味や使い方、さらには江戸時代の豆知識などにつ
いても知ることができます。

また、この本の著者は落語家さんで、
寄席よせの様子やはなし家になるための流れな
ど、落語に関するコラムも載っている
ので、落語に興味がある方にもおすす
めの1冊です。

